



生産者視点の肥料の課題と利用

平成30年11月27日

株式会社ぶった農産 代表取締役社長 佛田利弘

PRODUCE by Butta Agricultural Products Corp



▪ 省力化、コストダウンへの意識

- ☆土壌改良剤の削減 →資材代の価格上昇と散布費用の削減
- ☆堆肥の削減 →酪農家の減少や散布コストの削減
- ☆被覆肥料・緩効性肥料の利用増加

▪ 有機質肥料の利用への意識

- ☆有機農産物・特別栽培農産物への取組み意識
- ☆地力向上への意識
- ☆微生物分解による植物残渣の利活用

▪ 科学的施肥栽培の実施への意識

- ☆成分施肥による過剰施肥や生育障害回避の取組み
- ☆天候不順に対応する施肥施用体系への取組み
- ☆土壌分析による施肥の最適化への取組み



流通の最適化

- 銘柄が多すぎるのではないかな
- 流通のシステム化が遅れているのでは
- 流通コストの削減はどこまでできるか
- 大口購買のメリットは小さいのではないかな

容器の最適化

- 20kg袋の廃棄費用がかさむ
- 300kg等大口価格メリットが少ない
- 大袋の物流システムが弱いのではないかな
- 現場での大袋散布のシステム化が弱いのでは

利用と価格最適化

品質の最適化

- 公定規格が厳しいのでは
- 造粒等が過剰品質ではないか
- 副産物肥料のペレット化が進まない
- 製造プラントの見直しは出来ているか

成分の最適化

- 畜産副産物利用を拡大すべきでは
- 3成分セット肥料ばかりでよいかな
- 土壌分析による施肥になっているか
- 成分施肥実施の技術確立はできているか



成分施肥の実施

- 庭先・機上配合
 - 小型肥料混合器(200L~600L)による小型肥料プラント開発
- トラクター・田植機での機上配合の促進
- 単肥・単材料肥料流通のフレコンでの流通促進

堆肥・副産物肥料の利用拡大

- 混合堆肥複合肥料の混合割合拡大
- 設備支援による堆肥・副産物(魚かす・廃鳥)のペレット化

農地の肥料成分のフローとストックのコントロール

- 土壌分析による成分施肥
- 土壌分析の迅速化と低価格化
- 簡易な土壌サンプル化の器具装置の開発

物流の合理化

- 銘柄集約の更なる実施
- BB肥料の銘柄集約
- 大型包装の普及と廉価化
- 容器の回収システム構築